

教材名	銀の燭台	教科書	東京書籍6年（学研5年、教出5年）	学年	5～6年
内容項目	相互理解・寛容	謙虚な心を持ち、広い心で人の気持ちや立場を重んじ、相手の立場に立って考えようとする心情を育てる。			

内容項目のとらえ方  
(子どもの実態を踏まえ)

人は悪いこととわかっていても誤った行動をとるときがある。掃除をさぼったり、授業時間になったのに遊んでいて遅れたりする。あだ名を言ったりからかったり、人が傷つくことだとわかっていても言ってしまうことがある。そんな時、相手の行動だけでなく、そうしなければならなかった事情を考え、相手の行動を理解し、判断し、許さなければならない場合もあることに気づかせたい。

## 授業の展開

子どもたちの活動	指導上の留意点
<p>○「友達の失敗を許したことがあるか」をふり返って、ノートに書いてみる。 書いた内容を発表する。</p> <p>○物語を読み、心を打たれた場面を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司教が温かく迎えてくれたところ</li> <li>・銀の食器を盗まれても、司教が「あれは、貧しい人たちのものだ」と言ったところ</li> <li>・ジャンが捕まって憲兵に連れてこられたとき、許して銀の燭台をあげたところ</li> </ul> </div> <p>○銀の食器を持って逃げながら、ジャンはどんなことを考えていたか話しあう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これを売ればお金になる。</li> <li>・うまくいったぞ。これで助かった。</li> </ul> </div> <p>○憲兵に捕まったジャンを見たときの司教の気持ちや思いを考え、話しあう。4つの立場に分かれ、考えや理由を話しあう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・許さない：許したらまた盗ってしまう。</li> <li>・あげる：大切な命がなくなるから。</li> <li>・許す：みんな平等で貧しい人にも優しくしてあげないと。</li> <li>・あげない：あげたらまた盗むかも。</li> </ul> </div> <p>○自分の生活を振り返りながら、今日の学習で考えたこと、わかったことなど感想を書く。</p>	<p>○「友達の失敗を許したことがある」について発表されたことから、内容の方向性をつかませる。</p> <p>○物語は事前に一度読ませておく。</p> <p>○心に残った場面と選んだ理由をあわせて発表させる →ペア、班、全体</p> <p>○銀の食器を持って逃げるジャンの思いを考えさせる。【発問1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに書かせた後、発表させる。</li> </ul> <p>○捕まったジャンを見たときの司教の気持ちを考えさせる。【発問2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司教の気持ちをとらえさせるために、「罪を許す・許さない」「燭台をあげる・あげない」の4観点で考えさせる。</li> <li>・子どもの多様な考えを重視し、すべての考えを認めるようにする。→まとめない方向で</li> <li>・子どもたちを4つの立場に分け、考えや理由を話しあう。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <pre> graph TD     A[許す] --- B[あげない]     A --- C[許さない]     A --- D[あげる]     </pre> </div> <p>オープンエンドで終わる。</p>